

大活躍!

## 特殊管ワールドへの誘い

2回連載  
Part1

## ピッコロトランペットからE♭/D管までの賢い使い方!

知っているようでよく分からない特殊管トランペットの世界。この世界で圧倒的なシェアを誇るシルキーの特殊管を様々に使いこなす二人に、各トランペットの賢い使い方を聞いた。

記事協賛：株式会社 グローバル

——ピッコロトランペットや他の特殊管を、お二人はどのように使い始めましたか?

高橋 僕が初めてピッコロトランペットを吹いたのは高校時代のブラスアンサンブルで、楽器は学校の楽器でした。大学に入ると、ソロやアンサンブルでピッコロトランペットを使う機会が増え、そこでシルキーのピッコロトランペットを購入。次が、コンクールやソロでハイドンやフンメルを吹くために大学卒業後に購入したシルキーのE♭/D管です。

内藤 僕は大学に入るまで特殊管を吹く機会はなかったですね。中学時代、ピッコロバートをB♭管で吹いて死ぬ思いをしたのを覚えています(笑)。もちろん、アンドレの影響で楽器の存在は知っていました。

ピッコロトランペットを初めて吹いたのは大学に入ってから。学校の楽器でした。その後、大学3年のときに都響のオーディションがあり、そこでハイドンを吹くためにシルキーのE♭/D管を購入したんです。それが僕が手に入れた最初の特特殊管です。ピッコロトランペットは、運よく都響に入団できたあと、シルキーを購入しました。

## G管という楽器を使う理由

——シルキーにはG管もありますが、G管などは?

高橋 僕はG管は使ったことがない。G管なら内藤さん。

内藤 G管はブラスアンサンブルで使い始めたんです。本当にマイナーな楽器で、使う人はほとんどいない。

高橋 G管のための曲というのがないで

すからね。G管を使う例としては、バッハのカンタータ。二長調の曲では、ピッコロトランペットをA管にしてへ長調の指で吹くことが多いんですが、たまにハ長調の曲もあつて、そんな時はG管があると重宝します。

内藤 指が楽になる。ただ、僕がG管を買った理由はもつと単純で、大好きなエムバイア・ブラスのスメドヴィックさんが使っていたから(笑)。G管はこの形だとシルキーと他1社からしか出てなくて、スメドヴィックさんがシルキーを使っていたから僕もシルキーを買ったんです。「ピッコロを使えばいいじゃないか」と言われそうですけど、憧れがまず先にあつた。それに、見ても分かる通り、ピッコロトランペットとはベルの大きさが違います。

高橋 ベルの開きや大きさはE♭/D管に近くなる。

内藤 より長い管のトランペットに近い音色になるのが好きで、僕がやっているブラスクインテットでもずっと使っています。

高橋 金管五重奏の場合、1番がピッコ

1番がピッコロを使う場合、  
2番がG管だとよくブレンドする。



Schilke G/F Trumpet "G1L" ※他に4ピストンのG1L-4がある。  
イエローブラス チューニングベル F管用のベルと拔差管付属 (G1L-4には付属しない)。  
価格 (税込) G1L : SP..... ¥ 715,000 GP..... ¥ 1,210,000  
G1L-4 : SP..... ¥ 737,000 GP..... ¥ 1,089,000

ロを使うようなとき、2番がB♭管かC管だとちよつと離れ過ぎて、1番が突出して聞こえてしまうんです。そんな時にG管を使うとうまくブレンドします。

## ● 対談

高橋 敦

Osamu Takahashi

◎東京都交響楽団首席トランペット奏者

内藤 知裕

Tomohiro Naito

◎東京都交響楽団トランペット奏者

世界のトランペットシーンで  
**Schilke**



**高橋 敦**

富山県生まれ。洗足学園音楽大学短期大学を経て洗足学園音楽大学卒業。トランペットを津堅直弘、関山幸弘、佛坂咲千生の各氏に師事。第65回日本音楽コンクール1位、第13回日本管打楽器コンクール1位。新星日本交響楽団（現東京フィル）を経て1999年に東京都交響楽団首席。宮崎国際音楽祭、霧島国際音楽祭、セイジ・オザワ松本フェスティバルなどへ定期的に参加。ソリストとして国内外のオーケストラや吹奏楽団と共演。ミュンヘンARD国際音楽コンクールの審査員も務める。洗足学園音楽大学客員教授、東京音楽大学講師。



**内藤知裕**

1993年第10回日本管打楽器コンクール4位。大学在学中に東京都交響楽団に入団。1995年東京藝術大学卒。第65回読売新人演奏会出演。1996年日本音楽コンクール3位。1998年ITG主催E.スミス国際コンクールファイナリスト。2002年文化庁芸術家在外研修員としてシカゴに留学。これまでにトランペットをW.スカーレット、杉山孝夫両氏に師事。現在、東京都交響楽団トランペット奏者、エマーノン・プラスクインテット・メンバー。尚美学園大学・大学院、尚美ミュージックカレッジ専門学校コンセルヴァトアールディプロマ科講師。

G管は、ピッコロトランペットとC管やB♭管との中間の響きを持ち、ピッコロトランペットよりも広い音域をカバーできるという利点もある。ピッコロだと低い音域はほとんど吹けないけれど、G管だとC管の中音域程度までぎりぎりカバーできます。

—— 今号の本誌トランペット・コラム「管話休題」の縄野さんが、シャルリエがブランデンブルクをG管で吹いたのが、モダントランペットでこの曲が演奏された最初だった、と紹介しています。

内藤 それは知らなかったですね。

高橋 僕も知らなかったですが、バロックでG管を使うという選択肢は確かに以前からあったみたいで、コンラディン・グロートさんもよく、テレマンなどのレパートリーをG管で吹いてましたね。

内藤 フィリップ・スミスさんもメサイアなどをG管で吹くそうです。

### オーデিশョンとE♭管

—— ハイドンでE♭管を使うと言っても、オケのオーデিশョンではB♭管指定が多いと思うのですが。内藤さんが都響のオーデিশョンを受けた時はE♭管で良かったんですか？

内藤 楽器は何でもよかったんです。

高橋 都響はいまでもそう。ハイドンは好きな楽器でどうぞと。オケでは珍しいかも知れませんが。C管やB♭管はオーケストラスタディで聴けるので、ハイドンでは、その人のリサイタルを聴くようにして純粹に受験者の音楽的なポテンシャルを知りたい。だから楽器は自由にします。すると、みんな楽に表現できるE♭管を吹くことになります。

内藤 高い音に対するストレスが減りますからね。僕が都響を受けた時は「B♭管で」高い音を外すと、弦楽器の審査員の印象が悪くなり、それだけで落とされるとしたら理不尽なので、E♭管もOKにした」と聞きまし

た。もちろん、高い音はB♭管でも吹けなきゃいけないですけどね。

高橋 ハイドンがB♭管指定になったのはドイツの影響かも知れませんが。ドイツのオケのオーデিশョンは基本的にB♭管です。ドイツではB♭管が基本なので、B♭管の音色をまず聴きたいと。それと、ハイドンに出て来る高い音はB♭管でちゃんと並べる技術があるかどうか。

フランスのオーケストラだとC管でハイドンを吹いても良かったりします。日本でも少し前までハイドンを「B♭管あるいはC管」と指定する所もありましたが、変ホ長調でフラット系のハイドンをC管で吹く人はまずいない。

内藤 フランスでは多くいるようです。

—— フンメルはどうなんですか？

高橋 オリジナルはホ長調ですが、アンドレが半音下げて変ホ長調で吹き始めたのが影響したのか、その後、変ホ長調で吹くのが主流になってしまいました。

内藤 E♭管の楽器しかなかったからですね。

高橋 今ではシルキーにもE管はあるし、C管で吹く人もいますので、現在はオリジナル通りホ長調で演奏するのが一般的

### 都響のオーデিশョンでハイドンを吹くためにシルキーのE♭管を購入(内藤)

◀上から……

- ・高橋さん所有の E3L GP (E♭管、#3 ベル仕様)
- ・E3L SP (D管)
- ・同モデル付属の E♭管用ベル
- ・内藤さん所有の E2D GP (D管)

Schilke

E♭/D Trumpet “E3L”

※他に4ピストンのE3L-4がある。

イエロープラス チューニングベル D管用のベルと拔差管付属 (E3L-4には付属しない)。

価格 (税込)

E3L : SP… ¥ 715,000 GP… ¥ 1,210,000

E3L-4 : SP… ¥ 737,000 GP… ¥ 1,089,000





です。  
内藤 僕のこのG管（G1L）は、ベルと  
拔差管を変えてF管にもE管（オプション）  
にも出来るんです。  
高橋 3通りに吹けるのは便利だね。  
——E♭管をオケで使う人は増えてい  
る？  
高橋 増えているかも知れません。高い  
音域が続くところで持ち替えたりする人  
が海外のオケも含めて結構います。

内藤 昔の人も、楽器さえあ  
ればオケの中で使ったという  
話はよく聞く。イギリスなん  
かだと、E♭管がC管よりも  
使われてましたよね。  
高橋 昔のイギリスではB♭  
管の上がもうE♭管で、C管  
という選択肢がなかった。最  
近は違いますけど。  
——ブラスバンドの文化  
から来るもの？

高橋 でしょうね。  
内藤 フィリッ  
プ・ジョーンズの  
影響もあると思っ  
ます。

**Schilke**  
D管を使う  
頻度は高い

——D管は使い  
ますか？  
高橋 D管の方が

ミュンヘンコンクールを審査した時もピッコロは  
シルキー率がめちゃくちゃ高かった（高橋）

使う機会が多いですよ。例えば、  
バツハの口短調ミサやクリスマ  
ス・オラトリオなどでトランペ  
ット3本のとき、1、2番はA管  
のピッコロトランペットを使  
い、3番がD管を使うというケ  
ースが多いです。その方が各バ  
ーの音域的にもぴったりなん  
です。3番がC管やB♭管を使  
うと、先ほど話したように、ピッ  
コロトランペットと離れ過ぎて  
いわゆるセクションの音になら



▶上から……

- ・ピッコロトランペット P5-4 GP
- ・ピッコロトランペット P7-4 GP
- ・G1L SP（G管）
- ・同モデル付属F管用ベル

## Schilke Piccolo Trumpet

価格（税込）

P5-4 : SP… ¥704,000 GP… ¥1,056,000  
P5-4 BG : SP… ¥737,000 GP… ¥1,089,000  
P5-4 MA : SP… ¥737,000 GP… ¥1,089,000  
P7-4 : SP… ¥737,000 GP… ¥1,089,000

BG : 第1・第3拔差管にそれぞれフックとリングが  
付く。MA : 第4拔差管を短い拔差管に差し替え可能  
（第4バルブを押すと2度下がる）。

**Schilke**  
ピッコロトランペットは  
シルキー率が圧倒的に高い！

——ピッコロトランペットを学生時代  
に購入する人は多いと思いますが、きつ  
かけはやはりブラスアンサンブルなどで

必要に迫られて？

高橋 コンクールのためという人の方が  
多いんじゃないかな。

内藤 ここ20年くらいで、コンクールの



▲シルキーの特殊管を駆使する「ザ・シルキー・ファイブ」のリハーサル風景 (2020年11月に撮影)。左から高橋敦、川田修一、内藤知裕、松山萌、田中敏雄の各氏。

は?

高橋 いました。でも7割方はシルキーだったと思います。

今はベルリンフィルもシルキーのピッコロトランペットを使いますからね。何年前かにP5を2本新調したと言っていました。ロータリーのピッコロトランペットも各社から出てますが、単純に、シルキーのピッコロトランペットは吹きやすいんだと思う。

ピッコロトランペットにとって一番大事なのは、高い音域がちゃんと出て、音程が良く、良い音で、かつ吹きやすい、ということですね。シルキーはそのバランスが良い。特に高い音がきちんと出せる点が高い信頼を受けている理由ですね。

——シルキーのピッコロトランペットには幾つのモデルがあるのですか。

すか?

高橋 ベルの形状や、3本ピストンか4本ピストンかなどでいろいろ試して行っ

たんでしょうね。

倉林 そうですね。P7も元々は3本ピストンだったんです。その後、シルキーの現在の社長さん(アンドリュウ・ナウマン氏)が4本ピストンのP7-4を開発し、P5と同じように4本ピストンから選べるようになりました。

——P7-4はいつ頃に出た楽器ですか?

倉林 もう15年ほど前になります。

——P5を選ぶかP7を選ぶかは好みの問題ですか。

高橋 形がかなり違うので、音色感がちよつと違います。P5の方がストレートな形状ですから、オーケストラやブラスアンサンブル、他のトランペットと合わせたりする時は音色感を合わせやすいと思う。あくまでも個人的な感想ですが、ソロの多いバロックやコンチェルト、ソナタ、それに弦楽器とアンサンブルしたりするときは、音色が柔らかくて音に膨らみがあるP7の方が合うんじゃないかと思えます。

——お二人はどちらを使っていますか?

**P7は音色が華やかでかつ柔らかく、木管や弦とのアンサンブルでストレスなく吹ける(高橋&内藤)**

——ピッコロトランペットのメーカー別ではシルキーが圧倒的?

高橋 圧倒的です。これは間違いない。僕がミュンヘン・コンクールを審査したとき(2018年)も、シルキー率はめちゃくちゃ高かった。ほとんどと言っていいほどでした。

——ロータリーのピッコロを使う人

倉林 (グローバル担当者) シルキーのピッコロトランペットは以前は試作も含めると多くのモデルが存在しましたが、現在はP5とP7がメインです。ベストセラーは1971年にデビューしたP5-4という、ベルがストレートで4本ピストンのモデルです。

高橋 僕は両方です。

内藤 僕も両方。P7を購入したのは最近ですけど、本当に音色が柔らかいですね。華やかで、かつ柔らかい。その時々に合わせて使い分けています。

高橋 何年前か前、サイトウ・キネン・オーケストラでオネゲルの《火刑台上のジャンヌ・ダルク》というオラトリオをや

ったとき、1番トランペットがグラーツ

歌劇場首席のカール・ソードル君だった

んですが、僕がP7を持って行ったら、彼は「初めて見た!」と言っていた。「P5なら自分も持っているし、ヨーロッパでもみんな使っている」と。僕のP7を試してすぐ気に入って、「帰ったらすぐに楽器を採す」と言っていました。

内藤 P7は吹きやすいですね。僕はピッコロは苦手なんですけど、苦手な人はP7を選んでる人が多いみたいです。

高橋 木管楽器や弦楽器とのアンサンブルでは、トランペットが突出しないようにバランスや音色感など気をつかうじゃないですか。そんなとき、P7の方がP5よりもストレスなく吹けます。P7のベルはP5よりも太く見えるけれど、実際はどうなんだろう?

倉林 ベルのテーパーはどちらも基本的に同じです。管を巻いているか巻いていないかだけの違い。P5はベルがストレートなので細目に見えるのかも知れませんが、ベルの同じ位置を比べてみると同じだと分かるはずです。

高橋 本当だ。P7の方が絶対に太いと思っていた。

内藤 そう見えますよね。吹く時も太いと思いがちで吹いていた(笑)。

倉林 P7の方が吹きやすいというの

は、ベルが手前に来てモニターしやすい

こともあっていいですね。

高橋 P5には基本、指掛けがなく(指掛けはオプション)、P7には最初から付いてます。音程を調節できるのがいいところ。

——ところで、ピッコロトランペットで、B♭管とA管をどのように使い分け

ていらつしやいますか?

(以下次号)

高橋 僕は両方です。

内藤 僕も両方。P7を購入したのは最近ですけど、本当に音色が柔らかいですね。華やかで、かつ柔らかい。その時々に合わせて使い分けています。

高橋 何年前か前、サイトウ・キネン・オーケストラでオネゲルの《火刑台上のジャンヌ・ダルク》というオラトリオをや

ったとき、1番トランペットがグラーツ歌劇場首席のカール・ソードル君だったんですが、僕がP7を持って行ったら、彼は「初めて見た!」と言っていた。「P5なら自分も持っているし、ヨーロッパでもみんな使っている」と。僕のP7を試してすぐ気に入って、「帰ったらすぐに楽器を採す」と言っていました。

内藤 P7は吹きやすいですね。僕はピッコロは苦手なんですけど、苦手な人はP7を選んでる人が多いみたいです。

高橋 木管楽器や弦楽器とのアンサンブルでは、トランペットが突出しないようにバランスや音色感など気をつかうじゃないですか。そんなとき、P7の方がP5よりもストレスなく吹けます。P7のベルはP5よりも太く見えるけれど、実際はどうなんだろう?

倉林 ベルのテーパーはどちらも基本的に同じです。管を巻いているか巻いていないかだけの違い。P5はベルがストレートなので細目に見えるのかも知れませんが、ベルの同じ位置を比べてみると同じだと分かるはずです。

高橋 本当だ。P7の方が絶対に太いと思っていた。

内藤 そう見えますよね。吹く時も太いと思いがちで吹いていた(笑)。

倉林 P7の方が吹きやすいというの

は、ベルが手前に来てモニターしやすい

こともあっていいですね。